

にほんいち すいげん さと どうしむら  
**日本一の水源の郷をめざして——道志村**

みよもとのよりととも でんせつ  
**源頼朝伝説**

**3**

よりととも こうきゅう  
**頼朝の豪弓**



道志村のもっとも西にある長又と言う集落に、矢頭山と呼ぶ道志川に面した山があります。頼朝は山伏峠を越えて、この山に登り、きりきりと豪弓を満月のごとく引き絞り矢を放ち、矢はうなりをあげながら白井平・板橋・善之木の各集落の上を通過して、遠く一里(4km)も離れた神地まで飛び、見事に標的を射ぬきました。人々は、この場所を矢先といい、現在の矢崎になりました。この時、矢羽の一枚が飛び散って白井平の矢羽止の石に貼付き遺跡を残したと伝えられています。村びとが矢の根を拾い、頼朝公の武勇をたたえ、この矢の根をご神体とした矢の根神社を祀りました。



やのうざんざんちよう やま  
**矢頭山山頂にある「山の神」を祀った石の祠。**

ながまた つた まつり やま かみまつり  
**長又に伝わる「おびしゃ祭」と「山の神祭」**

まいとし かつ にち やま かみ まつり  
 毎年1月17日に「山の神のお祭」と「おびしゃ祭」が行われます。

ながまた やま かみ けしき びんごうしゅう 悪くまいたいせん のりと  
**「長又のお山の神でひく弓は五穀豊穡悪魔退散」と祝詞をお**  
**び、身を淨めた若者が前日に作った三重の白黒の的に、矢**  
**を放ち、十二ヶ月の天候・農作物の出来を占うお祭です。**



よりとともこう 頼朝公の弓の  
 でんせつ はじ ぎょう  
**伝説から始まった行**  
**事もありません。**  
**長又の集落に不幸が**  
**あるとこの祭は行わ**  
**れません。**

たくさんある よりとともでんせつ いし  
**たくさんある頼朝伝説と石**

試し切り石(ためしきりいし)  
 巻狩りの帰り道志川の上流の長又の地で武道鍛錬に時間を費やしました。頼朝は、所持していた名刀を研ぎすまし、近くにあった石を斬りつけたところ一枚石は見事に二つに切り裂かれたといわれています。

頼朝の足型石(あしがたいし)  
 大室指まで馬で下ったが、ここで草鞋の紐がゆるんだので馬を止めて石に足をかけて紐を締めた。このとき足の跡が残ったとされています。

頼朝の的様(まとさま)  
 昔、頼朝は巻狩りの帰り、的場にやぐらを造り4kmも離れた室久保川の筋まで矢をはなった。その川の中には、当てた筋の跡が残っています。

道志村子ども農山漁村地域協議会 道志村観光協会 〒402-0211 山梨県南都留郡道志村6894-4

TEL 0554-52-1414 FAX 0554-52-1415 URL <http://dashi-kanko.com>

このリーフレットは、農山漁村地域力発掘支援モデル事業により農林水産省から助成を受けて作成しています。